

奈良・大和路の旅報告

【山行日】2019年 11月28日～12月1日(木～日)

【集 合】岩舟支所 P AM 3:00

【費 用】マイカー1台 : 55,900円

【メンバー】CL:鈴木 SL 大西 石澤、島田、関、松葉、渡辺

28日 晴れ、東大寺大仏殿・正倉院・二月堂から春日大社、興福寺と奈良観光王道コースを巡る。

岩舟支所 P3:00＝東大寺 9:50～南大門～大仏殿～正倉院～二月堂～春日大社～興福寺～東大寺 15:00＝かんぽの宿「奈良」15:15

「ふたたびの奈良へ」と言うJR東海のPRに誘われ、秋の名所旧跡めぐりは奈良・大和路を計画した。

10年前に5日間掛けて歩いたコースを、今回は4日間で歩く計画を立てた。岩舟支所を3時に出発し、東北道から圏央道、東名高速から東名阪自動車道、名阪国道を走り天理ICで出て奈良に向かう。

東大寺入口の駐車場に車を止め、初日は奈良観光の王道コースを歩くことにする。

まずは奈良公園の鹿さんに挨拶し、公園の紅葉を楽しみながら東大寺南大門に向かう。高さ25mの壮



大な門の左右には、鎌倉時代の仏師運慶や快慶らの作で有名な金剛力士像が躍動感あふれる姿で出迎えてくれた。「奈良に来たらまずはこれを見なきゃね」と、皆さん満足そうに眺めていた。

ここから参道を歩き鏡池の畔を通って大仏殿の入口に着く。拝観券を購入し西楽門から入り、回廊を進んで大仏殿に向かう。大仏殿に入ると本尊の高さ15mの大きな盧舎那仏が、桁違いのスケールで出迎えてくれた。奈良時代の創建当時は黄金色に輝いていたという。本尊の盧舎那仏を安置する大仏殿は2度の兵火に遭い、江戸時代

に再建されたもの。創建時に比べ3分の2の間口に縮小したが、現存する木造建築では世界最大の規模である。柱に開けられた穴は大仏の鼻の穴と同じ大きさで、ここをくぐり抜けるとご利益があるという。S嬢が挑戦し難なくくぐり抜けたが、他の人は自分の体形を考慮し挑戦を諦める。大仏殿を出て北に向

って歩き、正倉院を見学する。特別公開は終わり、内部の宝物見学は出来ないが外から校倉造の建物を見学する。ここから二月堂に向かうが、公園内のいたるところで紅葉が楽しめる。石段を登ると三月堂の前に出て、左に少し歩くと二月堂の入口になる。中に入ると大きくせり出した舞台に出て、奈良市街が一望できる。3月12日夜からの「お水取り」の舞台として特に有名である。舞台から外に出ると参籠宿所があり、参詣者の休憩所として使用出来お茶が頂ける。中に入って温かいお茶をいただき、持参したミカンや菓子を食べておやつタイム。三月堂の前に茶店があり、お昼が近いので昼食をいただく。



柿の葉すしと素麺のセットや親子丼など、各自好きなものをいただいた。昼食が済んだら若草山山麓の道を歩いて春日大社に行くが、この道は旅館や土産店が並び多くの観光客で賑わっている。



春日大社の境内に入ると、ひときわ鮮やかな朱塗りの社殿が映える。中門から左右に鳥が翼を広げたように延びる朱塗りの御廊に、金の釣燈籠が下がり見事である。中門から出て表参道を歩き、奈良国立博物館の敷地を通過して興福寺に向かう。興福寺は藤原氏の氏寺として栄華を極めた古刹で、国宝や重要文化財が多く仏教美術の宝庫の寺である。境内に入るとまずは高さ50mの五重塔が目を引く。奈良でいちばんの高さを誇り、下から見上げるとその堂々とした存在感が感じられる。次に東金堂を見学し本尊の薬師如来坐像や日光・月光菩薩立像、

十二神将立像など貴重な仏像を間近で拝めた。中金堂は2018年に復元され、創建当時の天平様式の姿が300年ぶりによみがえっていた。南円堂から三重塔、北円堂と巡り、いよいよ国宝館を見学する。興福寺の国宝や重要文化財を納める仏教美術の宝庫であり、阿修羅像をはじめとする乾漆八部衆立像や十大弟子像など、天平彫刻の傑作が見られる。皆さんそれぞれが好みの仏像をゆっくり堪能でき、大満足の日だったと思う。ここから東大寺入口の駐車場に戻って車に乗り、今宵の宿「かんぽの宿奈良」へ向かう。



明日巡る予定の平城宮跡すぐ西に在り、奈良観光にはとても便利な宿である。敷地内、地下1300mから湧出する天然温泉に浸かり、旅の疲れを癒し夕食も我々だけの個室でゆっくりいただけた。ビールで乾杯しゆっくり食事を楽しんだら部屋に戻り、明日に備えて早めに就寝する。

29日 晴れ 平城宮跡をじっくり見学し、西大寺・唐招提寺・薬師寺と西の京の寺院を巡る。

かんぽの宿「奈良」8:30＝平城宮跡 P8:45～朱雀門～大極殿～遺構展示館～東院庭園～レストラン 11:50/12:20～西大寺 12:50/13:20＝唐招提寺 13:45/14:45～薬師寺 15:00/15:45～玄奘三蔵院 15:50/16:10～唐招提寺 P16:25＝かんぽの宿「平群」17:10

朝5時30分に起きて、まずは温泉に入り朝湯を楽しむ。7時10分から朝食バイキングが始まり、各自



好きなものをトレーいっぱいに取りテーブルに置く。さらにご飯やみそ汁、果物や飲み物、デザート等々テーブル一杯に並べる。皆さんバイキングは大好きなようで、ニコニコ顔で美味しそうに頬張っていた。

時間があるのでコーヒーやデザートもお代わりし、お腹がいっぱいになって部屋に戻り準備する。

8時30分にかんぽの宿を出発し、直ぐに平城宮跡駐車場に着く。幅74mもある朱雀大路から平城宮の正門「朱雀門」をくぐり、平城宮跡に入って行く。ところが直ぐに近鉄奈良線の線路が通っており、せっかく古の都に

入った途端興ざめさせられる。踏切を渡るが通勤時間帯にぶつかり、列車が4本通過するまで待たされた。ようやく踏切が開き大極殿を目指して行くと、大きな建物が建築用の保護シートで覆われている。「エ～大極殿は修理中で見られないの？そんなの聞いてないよ」と思ったら、中門の復元工事を行っているとの事。中門を過ぎると大きな大極殿の建屋が見え安心する。今回は資料館に寄らずに大極殿に直接行き、裏側の入口から大極殿に入る。平城京は唐の長安をモデルにして設計され、南北約5km、東西約6km、都の中央北端に政治の中心となる「平城宮」が造られた。

大極殿は宮殿の中でも最も重要な建物で、即位の儀式や元日の朝賀の儀式に使われたそう。ボラン



ティアガイドをお願いし、年配のガイドさんに案内してもらった。飛鳥から藤原京、平城宮に遷都された歴史的背景や、当時の建築方法や技術等々懇切丁寧に説明を受け大極殿を後にする。次に向かった遺構展示館までの途中に休憩所があり、休憩して干し柿や菓子をいただき足を休める。遺構展示館は発掘した状態(遺構)をそのまま保存し、見ることが出来る。何回も立替えられた建物の柱跡や、発掘された大きな井戸、石を敷き詰めた水路跡等を見ることが出来た。ここから南に向かって歩き、少し東に歩くと東院庭園

に着く。平城宮の東に張り出した部分を「東院」と言い、その南東隅に大きな庭園の遺構が発見された。

これが「東院庭園」で中央に複雑な曲線の池があり、称徳天皇はこの近くに「東院玉殿」を建て、宴会や儀式を催したそう。今でいう迎賓館に当たるといふ。ボランティアガイドに案内され、池を廻るように見学したが庭園の紅葉が彩りを添えて綺麗だった。平城宮の見学はここで終わり、一周する形で平城京歴史館に戻った。歴史館の中にあるレストランでランチタイムとし、魚・牛肉・鶏の3つのコースの中から鶏コースのランチをオーダーする。前菜に小鉢に入った野菜や惣菜が数種類出され、後からメインの鶏のソテーが出てとても美味しくいただいた。ランチが済んだら西の京と言われる地域の寺院、西大寺、唐招提寺、薬師寺と3つの寺院を巡る。まずは北に位置する西大寺から廻ることにする。



西大寺は西の大寺として天平時代に建立され、東大寺と並ぶ規模を誇ったが度重なる災害で本堂や金堂等の現在の規模に縮小された。本堂に上がり、本尊の釈迦如来立像や文殊菩薩像、弥勒菩薩坐像などの重要文化財を拝観する。ここから車で南に向かって走り、鑑真和上が開いた唐招提寺を見学する。駐車場に車を置き、道路を渡って南大門をくぐると、正面に国宝の金堂が堂々とした姿で迎えてくれる。

参道の玉砂利を踏みしめて進むと、眼前に迫る金堂の威容に圧倒される。豊かな量感と簡素な美しさを兼ね備えた、天平建築の最高傑作。正面に並ぶ八本のエンタシス列柱は、遠くギリシャの神殿建築技法が取り入れられていると感じられる。その北側に立つ講堂も素晴らしい。鑑真和上が唐招提寺を開創するにあたり、平城宮東朝集殿を朝廷より賜り移築したもので、平城宮唯一の宮殿建築の遺構だそう。ここから戒壇、開山堂、鑑真和上御廟と巡るが、庭園の紅葉や苔が美しく心が和んだ。



ここから法相宗の大本山、薬師寺に歩いて向かう。薬師寺は南都七大寺の一つとして、その大伽藍は我が国随一の装美を誇った寺院である。幾多の災害に見舞われ、特に1528年の兵火では、東塔を除く諸堂が灰燼に帰した。昭和42年、当時の高田好胤管主により薬師寺白鳳伽藍の復興が発願され、金堂、西塔、中門、回廊、大講堂が復興され白鳳伽藍が甦った。北受付から入り、大講堂から金堂、解体修理中の東塔から東院堂の内部を見学する。東塔は解体修理がほぼ終了し、工事用の足場を除けば完了する。南側から各層に裳階を配し、長年の風雪に耐えた律動的な美しさが際立っている。中門から南門、西塔を見学し、北受付に戻って玄奘三蔵院伽藍へ向かう。



玄奘三蔵院伽藍は、中央の玄奘塔に法相宗の始祖「玄奘三蔵」が祀られている。そこから大唐西城壁画殿に回り、平山郁夫画伯が30年の歳月をかけ完成された大壁画を鑑賞する。唐招提寺駐車場まで歩いて戻り、車に乗ってかんぽの宿「大和平群」に向かう。今日の宿も温泉があり、明日見学予定の法隆寺まで近いので便利な宿である。受付を済ませたら部屋に行き、浴衣に着替えて温泉に入る。温泉の後はお楽しみの夕食タイム。ビールやお酒で乾杯し、万葉ロマンの会席料理を堪能する。夕食が済んだら部屋に戻り、そのままベットに入り就寝する。

「玄奘三蔵」が祀られている。そこから大唐西城壁画殿に回り、平山郁夫画伯が30年の歳月をかけ完成された大壁画を鑑賞する。唐招提寺駐車場まで歩いて戻り、車に乗ってかんぽの宿「大和平群」に向かう。今日の宿も温泉があり、明日見学予定の法隆寺まで近いので便利な宿である。受付を済ませたら部屋に行き、浴衣に着替えて温泉に入る。温泉の後はお楽しみの夕食タイム。ビールやお酒で乾杯し、万葉ロマンの会席料理を堪能する。夕食が済んだら部屋に戻り、そのままベットに入り就寝する。

30日 晴れ 法隆寺をじっくり見学し、中宮寺・法輪寺・法起寺と斑鳩の里の古寺を巡る。

かんぽの宿「平群」8:30＝法隆寺iセンター8:40/8:55～法隆寺 9:05/11:20～中宮寺 11:30/11:50～

食事処 12:05/12:40＝法輪寺 12:50/13:20～法起寺 13:35/14:00～法輪寺 14:20＝橿原神宮 15:00/15:30

ペンション「あすか」16:00＝太子の湯 16:30/17:20＝17:30/18:10＝ペンション「あすか」18:20

今日も朝起きたらすぐに温泉に入り、のんびり朝湯を楽しみ朝食バイキングに備える。7時10分から



朝食になり、好きなものを好きなだけトレイに取り美味しくいただく。8時30分にかんぽの宿を出発し、10分くらいで法隆寺の駐車場に着く。隣接する法隆寺iセンターに行き、ボランティアガイドをお願いする。

フリーのガイドはまだ来てなくて、来るまでビデオを見て法隆寺の予備知識を頭に入れる。受付担当のガイドの方が「時間がもったいないから僕が案内します」と言ってくれ、法隆寺に向かって出発する。法隆寺は世界最古の木造建築にして、我が国の世界遺産第一号の文化遺産である。聖徳太子と推古天皇が607年に創建したと伝わり、18万7000㎡の敷地内に国宝・重文を含め190件、3000点もの寺宝が存在する仏教美術の宝庫である。

松並木が続く広い参道を進み、南大門の前で説明を受けているとガイドさんの携帯が鳴った。ボランティアガイドさんが到着したのでこれから行きますとの事で、ここでガイドさんが交代し新たに案内が始まる。中門の説明を受け、拝観受付で拝観券を買い西院伽藍へ入る。



まず回廊を進み、それを支えるエンタシスの柱や組物は、飛鳥建築の粋を集めたもの。柱は1本の大木を4分割し、檜鉋でエンタシス柱に削って造ると説明された。O嬢はこの話に納得がゆかず、「エッ何で4分割するの？1本の木から1本の柱を削るんじゃないの？」と食い下がっていた。ようやく納得し五重塔へ向かう。五重塔は釈尊の遺骨を奉安するものであり、仏教寺院において最も重要な建物とされているようだ。高さ約34mの日本最古の五重塔で、内陣には100体もの塑像群が祀られている。



東面から北面へと左回りに順番に観られ、一つの物語になっている。次に隣の金堂は世界一古い木造建築であり、本尊の釈迦三尊像をはじめ日本最古の四天王像など、飛鳥から鎌倉時代の優れた仏像が安置されている。大講堂を見たら西院伽藍を出て、大宝蔵院・百済観音堂へ向かう。途中、網封蔵の前に黒駒の像があり、聖徳太子はこの馬に乗って天を翔け富士山を越えたと伝えられているようだ。明日香の橘寺にそのような記述が残っているというので、明日確かめることにする。大宝蔵院は平成10年に落成した宝物殿で国宝の百済観音や玉虫厨子、夢違観音像をはじめとする、我が国を代表する宝物が多数安置されている。ガイドさんが懇切丁寧に説明してくれ、その時は「なるほどそういうことか」と納得するが直ぐに忘れてしまう。

膨大な宝物類の説明を受け、頭が疲れたので休憩所でひと休みする。お茶のサービスがあり、誰かが出してくれたチョコレートや菓子をいただく。頭の疲れが取れたら夢殿がある東院伽藍に向かう。夢殿は739年に聖徳太子を供養するために造られた八角の円堂で、太子が瞑想していると夢に仏が現れた場所に建つので、この名が付いたという。夢殿を出た所でガイドさんとお別れし、すぐ隣にある中宮寺に歩いて行く。中宮寺は聖徳太子創建の七ヶ寺のひとつで、太子が母の為に建立した尼寺である。拝観料を払って境内に入ると、狭いが良く手入れされた庭が気持ちよい。



皆さんもガイド観光で少々疲れた様子で、自由に歩いて本堂に参拝する。本堂に入ると本尊の国宝菩薩半跏像が謎めいたアルカイクスマイルで迎えてくれる。本尊の前に座り、録音された説明に耳を傾ける。受付で次の法輪寺までの道に食事処が有るか尋ねると、「無いので法隆寺の近辺で食事して、車で法輪寺まで行くと良いです」と言われ駐車場まで戻ることにする。駐車場隣の「柿の葉ずし平宗」に入り、柿の葉ずしセットをいただいた。ここから車で法輪寺まで行く。

法輪寺は、聖徳太子の病氣平癒を願い、その子山背大兄王が622年に建立されたと言われる。講堂に上がると、すぐれた飛鳥仏や平安仏が多数並び、間近で鑑賞できるので見応えがある。ここから次の法起寺までは、のどかな田園風景の道を行く。法起寺の三重塔は我が国最古で最大の塔で、田園の中に建つ塔の姿は斑鳩を象徴する風景になっている。法起寺を出てすぐにコスモス畑があり、Tちゃんがコスモスと三重塔をバックに写真を撮りたいという。皆でコスモス畑に降りて行き、コスモスと三重塔をバックに記念写真を撮る。



皆さんもガイド観光で少々疲れた様子で、自由に歩いて本堂に参拝する。本堂に入ると本尊の国宝菩薩半跏像が謎めいたアルカイクスマイルで迎えてくれる。本尊の前に座り、録音された説明に耳を傾ける。受付で次の法輪寺までの道に食事処が有るか尋ねると、「無いので法隆寺の近辺で食事して、車で法輪寺まで行くと良いです」と言われ駐車場まで戻ることにする。駐車場隣の「柿の葉ずし平宗」に入り、柿の葉ずしセットをいただいた。ここから車で法輪寺まで行く。

法輪寺は、聖徳太子の病氣平癒を願い、その子山背大兄王が622年に建立されたと言われる。講堂に上がると、すぐれた飛鳥仏や平安仏が多数並び、間近で鑑賞できるので見応えがある。ここから次の法起寺までは、のどかな田園風景の道を行く。法起寺の三重塔は我が国最古で最大の塔で、田園の中に建つ塔の姿は斑鳩を象徴する風景になっている。法起寺を出てすぐにコスモス畑があり、Tちゃんがコスモスと三重塔をバックに写真を撮りたいという。皆でコスモス畑に降りて行き、コスモスと三重塔をバックに記念写真を撮る。

コスモスと三重塔の風景を眺めながら、ミカンや菓子を食べ世界遺産の風景を楽しんだ。法輪寺まで戻って車に乗り、時間が遅れているので次の当麻寺は割愛し檀原神宮に向かった。檀原神宮は初代天皇である神武天皇が檀原宮で即位したという、日本書紀の記述に基づいて明治23年に創建された神社である。

御祭神は神武天皇とその皇后様で、我が国はじまりの地でもある。第一鳥居から広い参道を歩き、第二鳥居の先の南神門をくぐると外拝殿前庭に出る。神楽殿を左手に観ながら外拝殿

へ向かい、ここで参拝を行う。外拝殿の奥には内拝殿が鎮座し、京都御所の内侍所を下賜されたという本殿が素晴らしい。参拝が済んだら外拝殿脇の大絵馬の前で記念写真を撮り、来た道を駐車場まで戻る。



ここから今宵の宿ペンション「飛鳥」に向かう。受付を済ませると、宿の風呂は狭いので温泉を勧められる。部屋に落ち着いたら温泉に行く準備をし、全員で車に乗って「太子の湯」へ向かう。太子の湯は地元の方が毎日利用する温泉で、地元の方々に賑わっていた。今日の宿は夕食が出ないので、温泉から宿の近くの台湾料理店に向かう。中華料理と同じようなメニューだが、すべての料理がボリューム満点でとにかく安い。ビールとお酒で乾杯し、餃子とレバニラ炒め、マーボ豆腐、八宝菜を3人で食べたが食べきれない量で、料金が1人千円チョイの値段。昨日のお酒1本の料金より安い。宿に戻ると歯磨きして、そのままベットインして朝まで熟睡した。

1日 晴れ 亀石から石舞台古墳、日本最古の飛鳥寺や高松塚古墳などを見学して帰路につく。

ペンション「あすか」8:30＝明日香レンタサイクル 8:40～亀石～橘寺～川原寺～石舞台古墳～

飛鳥寺～酒船石～伝飛鳥板蓋宮跡～食事処 11:50/12:50～高松塚古墳 13:00/13:40～レンタサイクル「あすか」13:50/14:00＝岩舟支所 P22:50

今日は4日間で一番天気の良い予報で、自転車で巡るのには絶好の日和だ。7時から朝食をゆっくりい



ただき、8時30分に宿を出てレンタサイクルに行く。Sさんが先に歩いて行き、レンタサイクルは9時からですと言っていたが、直ぐに用意してくれた。電動アシストの自転車の取扱説明を受け、駅前のトイレに寄ってから出発する。高松塚古墳から廻る予定だったが、9時からなので帰りに寄ることにし亀石に向かう。道路の脇に付けられた自転車道を走り、途中から飛鳥周遊コースに入る。トンネルをくぐったりしてアップダウンがあるので、電動アシストがあるととても楽だ。亀石に着くが皆さんお隣の農産物直売所に入り、お買い物に夢中で中々出てこない。亀石はうずくまって笑っている亀に見える花崗岩の巨石。誰が何のためにこんな巨石をここに置いたのだろうと考えてしまう。皆さんが揃ったところで写真を撮り、次の橘寺へ向かった。田舎道を走り「聖徳太子御誕生所」の石碑を右折し、道なりに坂道を登ると橘寺に着く。



る。ここから今宵の宿ペンション「飛鳥」に向かう。受付を済ませると、宿の風呂は狭いので温泉を勧められる。部屋に落ち着いたら温泉に行く準備をし、全員で車に乗って「太子の湯」へ向かう。太子の湯は地元の方が毎日利用する温泉で、地元の方々に賑わっていた。今日の宿は夕食が出ないので、温泉から宿の近くの台湾料理店に向かう。中華料理と同じようなメニューだが、すべての料理がボリューム満点でとにかく安い。ビールとお酒で乾杯し、餃子とレバニラ炒め、マーボ豆腐、八宝菜を3人で食べた

たが食べきれない量で、料金が1人千円チョイの値段。昨日のお酒1本の料金より安い。宿に戻ると歯磨きして、そのままベットインして朝まで熟睡した。

1日 晴れ 亀石から石舞台古墳、日本最古の飛鳥寺や高松塚古墳などを見学して帰路につく。

ペンション「あすか」8:30＝明日香レンタサイクル 8:40～亀石～橘寺～川原寺～石舞台古墳～

飛鳥寺～酒船石～伝飛鳥板蓋宮跡～食事処 11:50/12:50～高松塚古墳 13:00/13:40～レンタサイクル「あすか」13:50/14:00＝岩舟支所 P22:50

今日は4日間で一番天気の良い予報で、自転車で巡るのには絶好の日和だ。7時から朝食をゆっくりい

ただき、8時30分に宿を出てレンタサイクルに行く。Sさんが先に歩いて行き、レンタサイクルは9時からですと言っていたが、直ぐに用意してくれた。電動アシストの自転車の取扱説明を受け、駅前のトイレに寄ってから出発する。高松塚古墳から廻る予定だったが、9時からなので帰りに寄ることにし亀石に向かう。道路の脇に付けられた自転車道を走り、途中から飛鳥周遊コースに入る。トンネルをくぐったりしてアップダウンがあるので、電動アシストがあるととても楽だ。亀石に着くが皆さんお隣の農産物直売所に入り、お買い物

に夢中で中々出てこない。亀石はうずくまって笑っている亀に見える花崗岩の巨石。誰が何のためにこんな巨石をここに置いたのだろうと考えてしまう。皆さんが揃ったところで写真を撮り、次の橘寺へ向かった。田舎道を走り「聖徳太子御誕生所」の石碑を右折し、道なりに坂道を登ると橘寺に着く。

自転車を止め、拝観券を買って境内に入る。橘寺は聖徳太子誕生の地と言われ、本堂に上がると聖徳太子が本尊として祀られている。本堂前には昨日法隆寺でガイドさんが説明した「黒の駒」があり、太子の愛馬で空を翔け達磨大師の化身と言われると書いてあった。二面石や護摩堂、観音堂などを見学したら川原寺に向かう。坂道を下って直進し、道路を渡った所が川原寺だ。飛鳥寺、大宮寺と並ぶ飛鳥三大寺の一つで、広々とした敷地に礎石と塔跡が点在し、大寺院の面影を伝えている。



寺院跡を歩いて礎石をたどり、塔跡に上がると当時の規模が実感できた。ここから道路に出て橘寺の東側を通り、飛鳥川に沿って山際の道进行り玉藻橋で川を渡ると間もなく石舞台古墳に着く。駐輪場に自転車を止め、道路を渡って拝観券を

買い古墳に向かう。巨石を積み上げて組んだ石室の中に降りると、ガイドの方が説明をしていた。巨大な石組を重機が無い時代にどのようにして造ったのかや、これだけ大規模の古墳を造れるのはかなりの権力者で、自身の権力を後世に残したい現れである。

当時、近くに荘園を持ち、最大の権力者だった蘇我馬子の墓と考えるのが妥当と言っていた。駐輪場まで戻り、隣接する休憩所でおやつタイム。休憩したら坂道を下り、Y字路を右に進んでしばらく道路を走り日本最古の寺院、飛鳥寺に着く。596年に蘇我馬子の発願により創建され、当時は最新の建築技術を駆使した大寺院だったと言われている。昭和31年の発掘調査により、創建時の寺は塔を中心に東西と北にそれぞれ金堂を配する日本最初の本格的寺院だったという。本堂に上がると飛鳥大仏で親しまれる釈迦如来坐像が微笑んでくれる。大仏の前に座り、寺の方から飛鳥寺の成り立ちや大仏の説明を受け、裏側の展示室を見て外に出る。寺の西にある、蘇我入鹿の首塚の五輪塔をお参りし飛鳥寺を後にする。ここから来た道に戻り、途中の酒船石に向かう。入口に自転車を止め木の階段を登って行くと、



尾根上に巨大な岩が置かれ、岩の上部に楕円形の穴や溝が掘られている。酒や油を搾するためのものなど諸説があるが、何のために造った岩か解らないようだ。来た道に戻り、自転車に乗って伝飛鳥板蓋宮跡に向かう。道路から西に少し入った所にあり、大化の改新の舞台となった宮跡で、遺構が復元され史跡公園として整備され、礎石や石組が残っている。井戸の跡や石組みの水路跡等を見て、公園内を一周したら最後の高松塚古墳に向かう。朝食がパン食でお腹が空いたと言うので、途中に「飛鳥鍋」の看板を見て入った



が値段が高いので却下。結局、駅前まで戻り、うどんか定食か聞くと「定食」と言うので「MARU や」と言う食堂に入る。店構えは良かったが、中に入るとテーブル席が3つしか無く、我々だけでほぼ満席。おまけに老夫婦で切り盛りし、出てくるのが超遅かった。焼肉定食とカツ定食、アジフライ定食をオーダーしたが、全部出てくるまでに1時間掛かった。先に食べ終わった人から向い側の道の駅「あすか夢販売所」でお買い物。全員食事が済み、買い物が済んだら高松塚古墳に向かう。

高松塚古墳は、地元の人が墳丘の南斜面で作物貯蔵用の穴を掘った所、凝灰岩の切り石を発見した。



これがきっかけとなって昭和47年3月から調査が行われ、貴重な壁画が発見された。江戸時代の盗掘により、副葬品はほとんど持ち去られたが、石槨内に極彩色の壁画が描かれており、世紀の大発見となった。その後壁画は国宝に指定され、保存上一切公開されないが、古墳の隣接地に壁画館を建設し石槨内部の模型と壁画の忠実な模写・模造が展示されている。ボランティアガイドの方から説明を受けながら、石槨内部の壁画模写を鑑賞し、どの壁画も優れた筆致で実に細かく描かれており感動

した。壁画鑑賞後古墳の墳丘に登り、古墳全体の様子を見ることが出来る。古墳の周辺は遊歩道が整備され、近くにある文武天皇陵まで歩いて行ける。我々は時間が無いので途中で引き返し、自転車に乗って明日香レンタサイクルまで戻ることにした。レンタサイクルに自転車を返却し、車に乗って帰路につく。橿原市から無料の京奈和自動車道に乗り、天理からは名阪国道、東名阪自動車道と走り、御在所 SA でお土産をゲットする。伊勢湾岸道や新東名道は順調に走るが、御殿場から先の東名道が事故渋滞で時間が掛かる。何とか予定より1時間遅れで岩舟支所に到着し、奈良&大和路の旅が無事終了した。



4日間とも好天に恵まれてほぼ計画通り巡ることが出来、いにしへの都奈良や斑鳩、飛鳥の文化や旧跡を堪能でき、大満足の旅となった。